

ティーチング・ステートメント

所属 観光マネジメント学科

名前 中村 純子

作成日 2020年3月23日

【責任】

観光マネジメント学科に所属して、専門科目である観光文化を主軸にした教育・研究を展開している。教育活動は観光学の関連科目（観光文化論、観光資源論、コンテンツツーリズム、持続可能な観光政策など）、本学ではリベラルアーツとなる文化人類学、そしてゼミナール活動であり、また2019年度に立ち上げた文芸同好会の顧問である。

【理念】

理念としては柔軟な判断力と社会性、思いやりを備えた人を育てることである。「自分で考える力」が重要となる。現代若年層は単に言われたことを行うなど、自分の意見に乏しく、興味あること以外に関心を示さない人もいる。これでは社会人としての「人間力」に欠け、挫折に弱い人物となってしまう。

とりわけ観光産業はこれまでインバウンド誘致やオリンピック、街づくり、MICE等がもてはやされたが、昨今のような感染症拡大や戦禍、災害に大変脆弱である。経済停滞から観光産業に大きな影響があるような不安定な情勢でも柔軟に考え、時に観光の枠を越えて自分で道を切り開ける判断力、社会性、他者への思いやりをもつ人物を育てることが肝要と考える。なお、「自分で考えることのできる人材」は長年の理念と変わらない。

【方針・方法】

観光を専門に柔軟な判断力と社会性、思いやりをもつ人物を育成するには、所属校において「リテラシー力」「自分で考え調べる力」「課外を含めた社会力」「幅広い教養力」が重要となる。

「リテラシー力」

・SNSなど様々なITツールが発達する一方、読み書きなどのリテラシー（読解）力が落ちていると思われる。ゼミで卒論やレポートに必須、社会人となっても欠かせない適切な理解力を高めるためにも、文献を読みまとめる能力を身につける。一見、アナログな方式として卑下されかねない方法であるが、継続して読解力を養うと苦手な学生も慣れてくる。

・講義ではテキストを利用する場合（文化人類学）、テキストの読み方も示しつつ、キーワード等をまとめる力をつける。テキストのない専門科目ではレジメ資料を配布してこれらを読み、意見をまとめる。

「自分で考え調べる力」

・ゼミでは一定の事項を各自が調べて発表することから開始し、興味あるテーマをたてて調査し、適宜口頭かパワーポイントで発表し、最終的に卒論へと進める。

・レクチャー式講義では難しいが、観光資源論のようにレクチャー後に少し時間（10分程度）を与え、自ら調べてノートや白地図に書き込むなどする。自習時間として、一方向的レ

クチャーで抜けてしまいがちな理解を進める。

・フロンティアなど専門の少人数講義では双方向的に常に話し合い、テーマを調べては報告したり、フロアで活発に話し合ったりして、課題を自分なりに考える。時には持続可能な観光政策のようにバリアフリーの観光をデザインするなど創造性を養う。

「課外を含めた社会力」

・人と話せない若者が多い。社会人前に社会勉強を兼ねて、ゼミではフィールドワーク的に合宿や課外ボランティア活動に参加させ、地域の人々と交流を試みる。観光で前提となるマナーや挨拶も実践し、コミュニケーション力を上げるようにする。

・コンテンツ系のイベントや学会、講演などで、可能な場合は希望する学生を同行させ、交流と社会勉強させる。他大学、地域との交流にもなる。

・集団（ゼミ）で考え、話し合い・実施することで仲間との協調性や思いやりも生じる。

「幅広い教養力」

・観光学（観光研究）は学際的学問分野なので幅広い教養が問われる。専門科目だけでなく、リベラルアーツや他専門分野も積極的に履修し、多様な見解をまじえてゼミ研究を進める。

・他者を思いやる想像力と配慮、社会性はこうした土壌があってこそ生まれる。

【評価・成果】

・ゼミ4年全員が2万字程度の卒業論文を単独で書き上げた（これまでのゼミ4年全て）。

・これまで松本賞を3度受賞（第二席、第三席）。

・特待生以下、学生がGPAなど成績をほぼ維持している。

・2019年広島合宿はゼミ生自身で準備・旅程作成、実施し、報告書まで書き上げた。

・ゼミ4年は留年もなく、全員が希望先に就職できた。

【目標】

短期目標

・2020年度内の湯河原イベントや他に参加。コンテンツ系の講演やイベントを告知、経験の場を増やす。他大学や地域との交流。

・ゼミ生が企画・実施できる機会を増やし、学年を越えた交流と学びの機械を増やす。可能な場合2020年度内に卒業生によるワークショップを実践（過去に実施）。

・学生と卒業生、教職員をまじえた〇〇カフェか集いの場を作りたい。オピニオンリーダーがテーマをプレゼン、皆で歓談する。ゆるい、規模大学ならではの学びと交流の場にする。

長期目標

・学科改組。たとえば経済文化学科として、観光学関連で文化遺産、地域学、食文化、サブカルチャーのいずれかに特化した、これまでにないコースを設立（経営学でない視点）。

・現公開講座を改革、駅前生涯学習センターか1年制の観光ビジネススクールを開校する。観光の実学的講師が大学卒業生や社会人に専門実技等を指導。観光のブラッシュアップスクールとしてブランド化する。観光だけでない講座設置も可能。